

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月10日

協議会名: 新城市地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ①利用者数 ②収支率 ③利用者の満足度(1.0を基準値(普通)とし、0.8~1.2の間で数値が高いほど満足度が高い)の3項目で評価	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
豊鉄タクシー株式会社 西部線 (地域内フィーダー系統)	川田原滝~ 新城東高校	<ul style="list-style-type: none"> ・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。 ・希望者に対し、マイバス時刻表を作成し、配付を行った。 ・沿線地区である千郷地区の地域協議会で地域との意見交換を実施し、高齢者を中心とした潜在的ニーズ把握と生活の足確保を検討するための地域と行政(公共交通・福祉)が一体となった会議体を設立した。 ・乗降調査日の全便に市職員が乗り込み、利用者からは利用目的、利用頻度、満足度など、運転手からは利用者の様子や経年変化の聞き取りを行った。 	A 市内で沿線人口と65歳以上人口が共に最多となる西部地区を運行する本路線は、市中心部の医療機関への通院や商業施設への買い物等に出かけるための重要な路線となっている。事業は、計画どおり実施できた。	B <ul style="list-style-type: none"> ①利用者数 目標3,621人/実績3,588人 達成度99% ②収支率 目標7.57%/実績6.38% 達成度84% ③利用者の満足度 目標1.07/実績1.11 達成度(基準値1.0との差 +0.11) ・主たる利用者 高齢者 ・利用者数の推移(対29年度比) (総数) 3,022人(30年度)-3,019人(29年度)・・・3人	この路線の利用者は、主に高齢者であり、高齢者が市中心部の医療機関への通院や商業施設への買い物に出かけるための路線となっている。今後は新たな利用者獲得のため、地域が設立した会議体と行政が協働してニーズ調査(年代、性別、目的、利用頻度、利用時間帯など)の把握と分析を進め、西部線をより利用しやすい路線とできるよう検討していく。
新城市 塩瀬線 (地域内フィーダー系統)	上島田 ~大海駅・玖老勢	<ul style="list-style-type: none"> ・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。 ・希望者に対し、マイバス時刻表を作成し、配付を行った。 ・沿線地区である鳳来北西部地区の地域協議会で地域との意見交換を実施し、バス及び地域の現状と課題を共有し、今後継続的に議論していく方針とした。 ・乗降調査日の全便に市職員が乗り込み、利用者からは利用目的、利用頻度、満足度など、運転手からは利用者の様子や経年変化の聞き取りを行った。 	A 中学生の通学の足として、また高齢者の通院や買い物の足として適切に運行ができた。また、他の路線との接続を考慮し、市中心部への移動の利便性を確保することができた。	B <ul style="list-style-type: none"> ①利用者数(子供利用を除く) 目標1,672人/実績1,472人 達成度88% ②収支率 目標3.56%/実績2.56% 達成度72% ③利用者の満足度 目標1.17/実績1.07 達成度(基準値1.0との差 +0.07) ・主たる利用者 中学生、高齢者 ・利用者数の推移(対29年度比) (子供利用除く) 1,397人(30年度)-1,505人(29年度)・・・▲108人 (総数) 2,722人(30年度)-2,494人(29年度)・・・228人	地域住民との意見交換を進めながら、利用者だけでなく未利用者のニーズを把握し、住民生活にとってより利用しやすい、かつ観光客等の新たな利用者獲得も見込めるような路線網となるよう検討していく。
新城市 つくであしがる線 (地域内フィーダー系統)	診療所~診療所 (曜日ごと路線が異なる循環運行)	<ul style="list-style-type: none"> ・バスマップを各戸配布し、利用促進を図った。 ・令和元年10月より作手地区内の路線を再編し、デマンド型区域運行を開始するための準備を進めた。 ・デマンド型区域運行への移行に合わせて、住民等が構成するワークショップ、作手地区の地域協議会、区長会、民生委員協議会などで意見交換と協議を重ね、その結果を事業に反映させることで、地域全体でバスを作り上げ、愛着が持てるよう努めた。 ・潜在的ニーズの掘り起こし策として、各行政区単位や希望団体でデマンドバスの利用方法の説明会を延べ30回以上行った。 ・乗降調査日の全便に市職員が乗り込み、利用者からは利用目的、利用頻度、満足度など、運転手からは利用者の様子や経年変化の聞き取りを行った。 	A 作手地区内各集落での生活を維持するために欠かせない路線であり、地域の生活を支えるための運行を実施することができた。	B <ul style="list-style-type: none"> ①利用者数 目標1,016人/実績946人 達成度93% ②収支率 目標2.50%/実績1.97% 達成度79% ③利用者の満足度 目標1.20/実績1.16 達成度(基準値1.0との差 +0.16) ・主たる利用者 高齢者 ・利用者数の推移(対29年度比) (総数) 1,016人(30年度)-971人(29年度)・・・45人	定時定路線のつくであしがる線に代わり、令和元年10月から運行開始したデマンド型区域運行バスについて、その改善すべき点や利用促進(お出かけしたくなる仕組み作り)を、地域協議会、社会福祉協議会、民生委員、医療機関、農協、行政(公共交通、福祉、教育)など官民一体となって協議をしていく。